

事 項	青森県におけるシュクコンスターチスうどんこ病の初発生		
ね ら い	本県で新たに発生が確認された病害について、その特徴を記載し、防除指導上の参考に供する。		
指 導 参 考 内 容	<p>1 発生状況 平成10年9月7日、木造町千代田でシュクコンスターチス（品種：ブルーファンタジア100）の葉、茎、花茎及び花梗に、白色の菌叢がみられ、典型的なうどんこ病の特徴を確認した。発病株数は100%、発生面積は3a(ビニルハウス1棟)であった。その後、稲垣村でも発生が認められた。</p> <p>2 病原菌の形態 病原菌は、植物体の表面に菌糸、分生子柄、分生子を形成し、閉子のう殻は確認できなかった。分生子は単生し、形態は円筒形～楕円形、大きさは32-52×12-20μmの無色単胞であった。内部にフィロシン体は観察されなかった。分生子柄の長さは、60-91μm、付着器は掌状であった。既報の三重産菌株及び大分産菌株と比較したところ、ほぼ同様であったため、シュクコンスターチスうどんこ病 (<i>Oidium</i> sp.) と診断された。</p> <p>3 寄生範囲 農林水産省野菜・茶業試験場が行った接種試験の結果、供試した <i>Limonium</i> 属のうち、宿根性品種（「ブルーファンタジア100」、「ブルーファンタジア88」、「ブルーウェーブ」等）には病原性が認められたが、シヌアータ種（「ミルクキーウェイ」等）には病原性が認められなかった。</p> <p>4 防除対策 (1) 定植時には発生苗がないかを注意するとともに、定植後は早期発見に努める。 (2) スターチス灰色かび類に登録のある薬剤で、ポリオキシシンAL水溶剤、ポリベリン水和剤に防除効果が期待できるので、発病初期に灰色かび病との同時防除を行う。</p>		
期待される効果	迅速な診断と防除指導の参考となる。		
利用上の注意事項			
担 当	フラワーセンター21あおもり 生産技術部	対 象 地 域	県下全域
発 表 文 献 等	平成10年度 フラワーセンター21あおもり試験成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 シュクコンスターチスうどんこ病菌の形態

(平成10年 フラワーセあおもり)

比較項目		青森産	三重産	大分産
分生子	大きさ (μm) 形態 形成 フィブリン体	32-52×12-20 円筒形 単生 無	(29-)35-52(-62)×15-19 円筒形 単生 無	(32-)40-52(-62)×14-20 円筒形 単生 無
分生子柄	細胞数 長さ (μm) 基部細胞 大きさ (μm)	2-3 60-91 円筒形 25-36×8-10	2-4 (78-)88-130(-139) 円筒形 28-43(-54)×9.3	2-4 (80-)95-128(-139) 円筒形 30-50(-75)×10.5
付着器		掌状	掌状	掌状
閉子のう殻		未確認	未確認	未確認

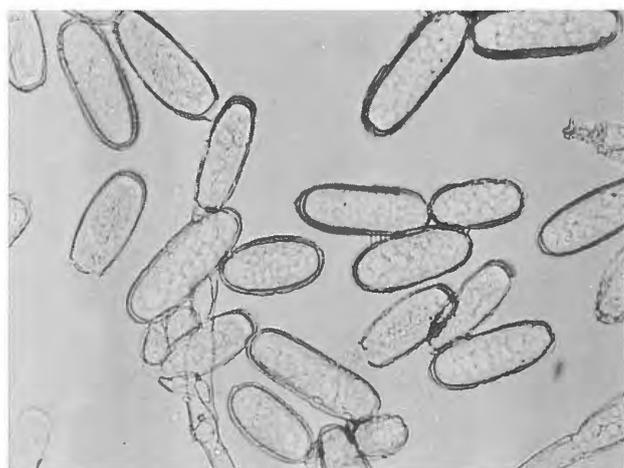


図1 シュクコンスターチスうどんこ病分生子

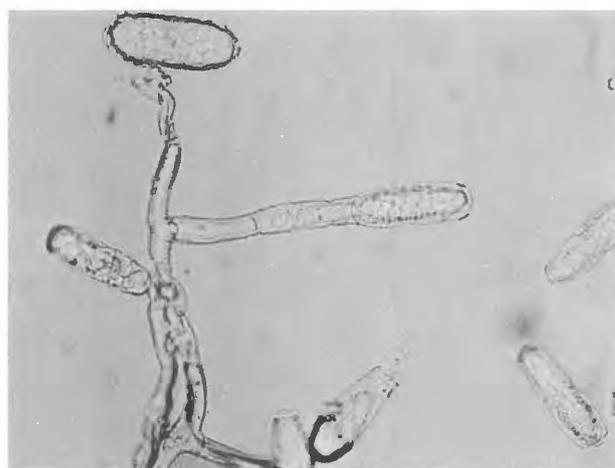


図2 シュクコンスターチスうどんこ病分生子及び分生子柄